

# 右翼的労戦「統一」攻撃粉碎

闘う総評の旗を守り前進しよう



81.10.18 No. 全日版 96

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六(公電)四三二二七二〇七

## 全国の仲間へのアピール

### 三里塚Ⅱ反戦闘争の爆発で、総評解体Ⅱ産報化への攻撃をうち破ろう

内外情勢の恐るべき危機と激動化、日帝・支配階級の戦争にむけた歴史を画する大反動攻勢の中で、今日、労働運動への圧殺・解体攻撃がますます激化している。「統一推進会」による「十二月十四日統一準備会正式発足」の打ちだしと労働戦線「統一」策動がそれである。

われわれは、今こそ、労働者階級の責務にかけて、この右翼的・反動的攻撃を粉碎し、労働運動の原点を守り、闘いぬいていかねばならない。今日の労働「統一」問題の核心は、J.C.同盟をはじめとする民間大産の名だたる右翼的反動的幹部や労働貴族によって挑戦的に推進されている事実にはつきり示されているように、日帝・支配階級と帝国主義的労働運動の側からする、戦後労働運動に加えられた凶悪な反階級的攻撃だという点にある。

#### 総評労働運動のゆさぶりと解体を狙った悪らつな攻撃

それは、もはや「労働運動の右傾化」などといつてすまされるようなものではない。「平和と民主主義」を旗印として、まがりなりにも戦後日本労働運動の闘闘性をリードしてきた総評労働運動を最後の破壊・解体し、階級的労働運動の一切を根絶しにする攻撃であり、労働組合を完全な労資協調と企業防衛主義に染めあげ、侵略と戦争へ協力・加担させ、憲法改悪の積極的な推進者に変質させるすさまじい大攻撃である。

まさしく軍事大国化・改憲を頂点とする大反動攻勢と軌を一にした、戦後の階級関係を反動的に転覆せんとする攻撃である。

このとき、日本労働運動の危機は、きわめて深刻なものといわねばならない。横枝議長―富塚事務局長に代表される総評指導部は、敵階級の側からかかる明々白々たる人総評分断―解体V攻撃に対して、毅然たる対決をいどむどころか、逆にそれを「大筋において理解する」という驚くべき追従の姿勢をとっている。その上での「五項目補強見解」が何らの「歯止め」にならないばかりか完全に無力であることは、すでにこの間、富塚事務局長が「統一準備会への一括参加」の意志を表明している事実のなかに明白である。

#### 右翼的労戦「統一」の最尖兵Ⅱ 動労「本部」革マルを粉碎・一掃せよ

一方、動労「本部」革マル反動分子は、労働

統一Ⅱ攻撃のいっその進展と総評指導部の屈服と動揺の深まりにたいして、「右翼労働統一に歯止めをかけた総評大会」「五項目の富塚路線は大勝利」などと、手ばなしで美化・宣伝し、労働者の武装解除を策するとともに、労働「統一」攻撃の最悪の尖兵としてたちあらわれている。

動労「本部」革マル反動分子は、「労働統一反対」というベテンのボーズの背後で、実は、自らも右翼再編の最前列に動労をもぐり込ませようと策動しているのである。

そもそも「本部」革マル反動分子は、国鉄当局の親衛隊として、三十五万人体制大合理化攻撃の尖兵と化し、三月ジェット決戦ストライキへの公然たるスト破りと首切り要求を行い、「六・一二津田沼事件」をデッチ上げ、動労千葉の組合員十名を警察にタレコミ告訴して、完全な警察労働運動に転落している。そして、「反ファシズム統一戦線」と称して日共と野合し、不屈に闘いぬいている三里塚農民や動労千葉を、スパイ、ゴロツキ、ネオファシスト、と悪罵し、権力・当局一体となつて背後から襲いかかっている。

これこそ、右翼的労働統一攻撃Ⅱ帝国主義的労働運動の最凶悪のファシスト的尖兵といわずして何といおうか。危機意識と怒りに燃え、現状打破をめざして苦闘しているすべての労働者の皆さんに、動労千葉は、決意もあらたに右翼労働「統一」の尖兵Ⅱ告訴革マルを全戦線から追放一掃し、戦闘的労働運動をしっかりと守り前進しなければならぬことを訴える。

(裏面につづく)

# 三里塚＝反戦闘争の爆発で右翼的労戦「統一」を粉碎せよ

三里塚＝反戦闘争の爆発で  
右翼的労戦「統一」を粉碎しよう

われわれは、戦争と反動攻勢の嵐が吹き荒れる中、労働組合の階級的責務にかけて、いまこそ反撃に起ち、労働運動の戦闘的高揚を創り出し、階級関係の左からの逆転を切りひらかねばならない。いま、まさに問われているのは、既成労働運動の幹部達の「かけ引き」や「種々の談合」などではなく、労働運動の階級の原点にたちかえり、労働者階級の大衆的戦闘力に立脚した、激動の八〇年代を真に勝利しぬく確固たる路線とたたかいの実践なのだ。

わが動労千葉一三〇〇は、七年連続の春闘敗北、十七年ぶりのストなし春闘の惨敗と屈辱をつき破って、三里塚労働連帯の旗を高々と掲げ、五日間の三月ジェットストライキをうちぬいた。

権力、当局、革マル反動分子の密集せる大反動を粉碎して、組織力を強化し、着実な前進を勝ちとってきた。

動労千葉は、この闘いの勝利と路線的確信の上にあたって、きつぱりと宣言する。

階級情勢の逆転をきりひらき、軍事大国化、改憲＝右翼労戦統一攻撃を粉碎し、勝利していく道は、日帝

が体制的危機脱出をかけた基軸的攻撃としてうち出し、いま切迫し、風雲急を告げている三里塚二期攻撃にたいして、いまこそ、労働者階級本隊が総決起し、二期決戦の勝利を自らの課題として、たたかいてくることにある。

戦後階級闘争の「最強の砦」であり、「反戦の砦」である三里塚。十六年間にわたって国家権力の暴力と反動の攻撃の前に強力にはたかり、不撓不屈の實力闘争を闘いぬいてきた不滅の三里塚。ここにおいて巨万の労働者本隊の決起をかちとり、強固な労働同盟をうちかため、二期攻撃粉碎＝軍事大国化＝改憲阻止の反戦＝政治闘争の全人民的高揚をかちとるならば、八〇年代における労働者人民の勝利の突破口は必ずひらける。われわれのたたかい、かつ、生きる道は、ここにある。

今こそ「80年代に通用する自前の労働運動」を構築しよう  
全国・全職場から戦闘的反撃にうつて出よう！

動労千葉一三〇〇は、八一・三闘争の地平を守りぬき、「八〇年代に通用する自前の労働運動路線」の真価をいまこそ発揮し、三里塚二期攻撃阻止・国鉄三十五万人体制攻撃粉碎を基軸に、戦闘的・階級的労働運動の全国的拡大・発展にむけて全力で闘いぬく決意である。

戦闘的労働運動の破壊者＝右翼労戦統一の尖兵＝動労「本部」革マル反動分子を追放・一掃し、労働大改革・労働運動の戦闘的再生をかちとろう。すべての労働者は、三里塚二期攻撃粉碎に起て、共に進もう。共に闘おう。

一九八一年 十月

以上の「アピール」は、動労千葉第六回定期大会（9月9日～10日、於千葉市）において満場一致採択された全国の仲間への「緊急アピール」によるものです。



三里塚から反戦の炎を！ 闘う全国の労働者は決起しよう。（三里塚二期着工阻止 10・11 全国総決起集会）